

[参考事項]

新技術名：ニホンナシ新品種の秋田県における特性（平成 19～27 年）

研究機関名 果樹試験場 総務企画室 天王分場班
担 当 者 菅原哲平・長澤正士

[要約]

ナシ第 8 回系統適応性検定試験により、ニホンナシ「はつまる」、「凜夏（りんか）」、「ほしあかり」、「なるみ」および「甘太（かんだ）」が新たに登録されたが、本県における適応性が高いと判断される品種はなかった。

[普及対象範囲]

県内のニホンナシ生産者

[ねらい]

ナシ第 8 回系統適応性検定試験（2007～2014）において、（国研）農業・食品産業技術総合研究機構果樹研究所が育成した系統が検討された。本試験により、「はつまる」（系統名「筑波 54 号」）、「凜夏」（同「筑波 55 号」）、「ほしあかり」（同「筑波 56 号」）、「なるみ」（同「筑波 57 号」）および「甘太」（同「筑波 58 号」）が品種化された。そこで、これらの品種を品質、栽培特性および気象災害等の危険回避や省力化といった観点から評価し、本県における適応性の高い品種を選抜する。

[技術の内容・特徴]

1. 「はつまる」は良食味の極早生種であるが、本県では果実が小玉であること、花芽の枯死がみられることから、本県での適応性は低い（表 1）。
2. 「凜夏」は西南暖地でも花芽が安定して着生し、自家摘果性を有する中生種であるが、果実に毎年ミツ症が多発することから、本県での適応性は低い（表 2）。
3. 「ほしあかり」は黒星病抵抗性を有する中生種であるが、条溝をはじめとする果形不良が多くみられること、樹冠の拡大が遅いことから、本県での適応性は低い（表 3）。
4. 「なるみ」は受粉を必要としない自家和合性の中生種であるが、枝幹病害に弱い傾向がみられ、本県での適応性は低い。
5. 「甘太」は食味に優れ、豊産性の晩生種であるが、果実品質の年次差が大きく、本県での適応性は低い。

[成果の活用上の留意点]

1. 本成果は、砂丘未熟土に植栽され、マメナシを台木とした木で得られたものである。

[具体的データ等]

表1 ニホンナシ新品種の果実特性（天王分場、平成26年）

品種名	収穫始 ^x	収穫終 ^x	果重 ^x (g)	揃い	果形	硬度 ^x (lbs)	糖度 ^x (Brix %)	pH ^x
はつまる	8/19	8/28	293	良	扁円	4.3	12.7	4.90
凜夏	9/ 4	9/18	564	中	円	4.3	12.2	4.68
ほしあかり	9/17	9/27	412	中	円	4.6	13.6	4.97
なるみ	9/22	10/ 3	529	中	円	4.8	12.9	4.70
甘太	10/26	10/30	614	良	円楕円	4.5	13.1	4.72
幸水	8/31	9/18	412	中	扁円	5.6	12.5	4.93
豊水	9/23	10/ 5	464	中	円	5.0	12.4	4.56

^x 平成23～27年の平均値

表2 ニホンナシ新品種の生理障害（天王分場、平成26年）

品種名	心腐れ	みつ症	生理的 裂果	硬化障害
はつまる	なし	微	なし	なし
凜夏	なし	極多	なし	なし
ほしあかり	なし	なし	なし	なし
なるみ	なし	なし	なし	なし
甘太	なし	なし	なし	なし
幸水	少	なし	なし	なし
豊水	なし	なし	なし	なし

表3 ニホンナシ新品種の樹勢、開花期および結実性（天王分場、平成26年）

品種名	樹勢	枝の 発生密度	樹冠面積 (m ²)	開花期		短果枝の 着生	腋花芽の 着生
				始期	終期		
はつまる	やや強	やや多	10.9	5/ 4	5/14	やや少	中
凜夏	中	中	9.3	5/ 4	5/15	やや多	やや少
ほしあかり	やや弱	中	8.2	5/ 3	5/13	中	中
なるみ	やや強	やや多	9.2	5/ 4	5/16	中	中
甘太	中	中	19.1	5/ 5	5/15	多	中
幸水	中	中	-	5/ 5	5/17	中	中
豊水	中	中	-	5/ 2	5/14	中	中

開花期のみ平成23～27年の平年値

樹冠面積は樹齢7年時点

[発表論文等]

なし